



**お元気ですか！**  
**志村 たかよし**です

第902号 2018年8月26日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1  
電話 3546-5563  
FAX 3546-9570

## またもや保育中に幼児が死亡

# なぜ、中央区で、保育中の死亡事故が相次ぐのでしょうか

### 党区議、繰り返し「質の向上と安全性の強化」を要求

7月27日、区が認可した「家庭的保育施設」で、生後11か月の女の子が睡眠中に亡くなる事故がありました。

「家庭的保育」とは、保育する人（保育ママ）の自宅などで幼児を預かる「保育」のことで、中央区には3カ所あります。

今回の死亡事故は、日本橋の保育ママの自宅で起きました。

保育ママが、保育中に眠っていた女の子を起こそうとしたところ、応答がなかったので119番通報しましたが、搬送先の病院で死亡が確認されたということです。

女の子は、睡眠中の突然死を起こしやすいと言われる「うつぶせ寝」ではなく、あおむけの状態です。

現時点で死因は不明ですが、警察は事件性はないと判断しています。



区は、死亡事故を受け、10月までに弁護士や保育関係者など外部有識者を含めた「検証委員会」を設置することにしました。

検証委員会では、事業者や保護者からヒアリング調査をおこない、当日の事故に至る経緯を検証して再発防止策を提言する方針です。

また、保育のプロセスを検証して、認可保育所など他の保育事業にも生かせる点があるかを確認するとしています。

16年3月には、日本橋の企業内保育所で1歳2ヶ月の男の子がうつぶせ寝で亡くなる事故が起きた（本誌「787号」参照）。

私は、同年9月の第3回定例会の一般質問で、この問題を取り上げ、認可保育所と認証保育所だけに行われていた巡回指導を区内すべての保育所で行うことを求めました（814号）。

その後、区は巡回指導員を増員し、すべての保育所を対象に実施することになりました。

今回、事故を起こした保育ママの家にも区の巡回指導が行われましたが、保育体制や設備上の問題は見られなかったと言います。

中央区では、数年前にも「保育ママ」が預かった幼児の死亡事故が起きています。

区長は、私の一般質問にたいし、「保育園での死亡ゼロをめざしてしっかりといきたい」と答弁していましたが、残念ながら、また、起きてしまったのです。

なぜ、中央区で、保育中の死亡事故が相次ぐのでしょうか。

事故の背景に共通する「何か」があるのでしょうか。

子どもの命を守るために、検証委員会の調査結果を踏まえて「事故の背景」を分析するとともに、「保育の質」の向上と安全性強化をはかるため、ひきつづき、力を尽くしていきます。



グラフは、半年ごとの価格の推移を示しています。  
3年前から「高値安定」となっています。さて、いつまで続くのでしょうか。  
(つづく)

前回、5つの再開発事業における「デベロッパーの儲け」を試算しました。

そのときに使用した1㎡当たりの単価「月島で113万円」「勝どきで107万円」は、野村不動産アーバンネット株式会社配属した「勝どき・晴海・月島・佃のマンション価格推移」(下図)を参照したものです。

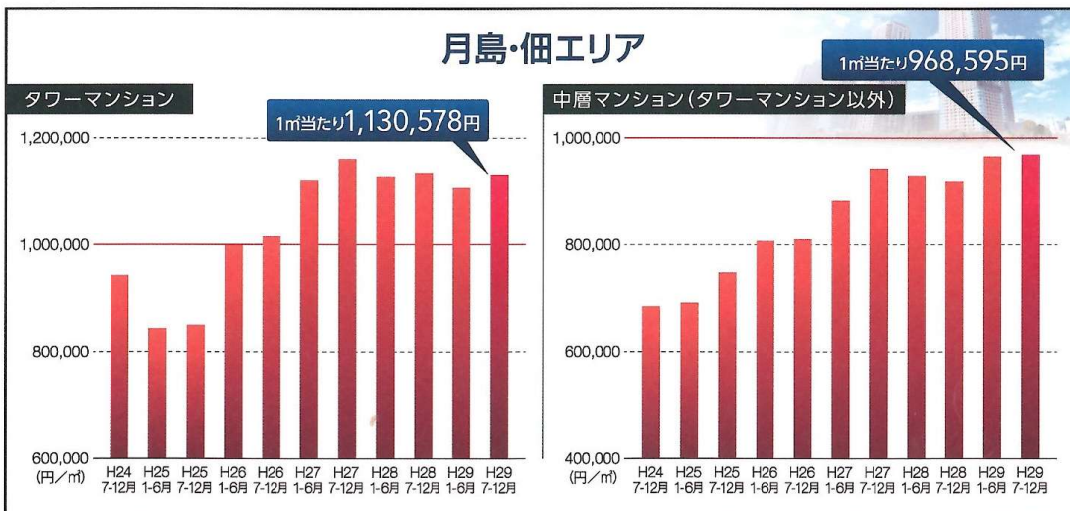
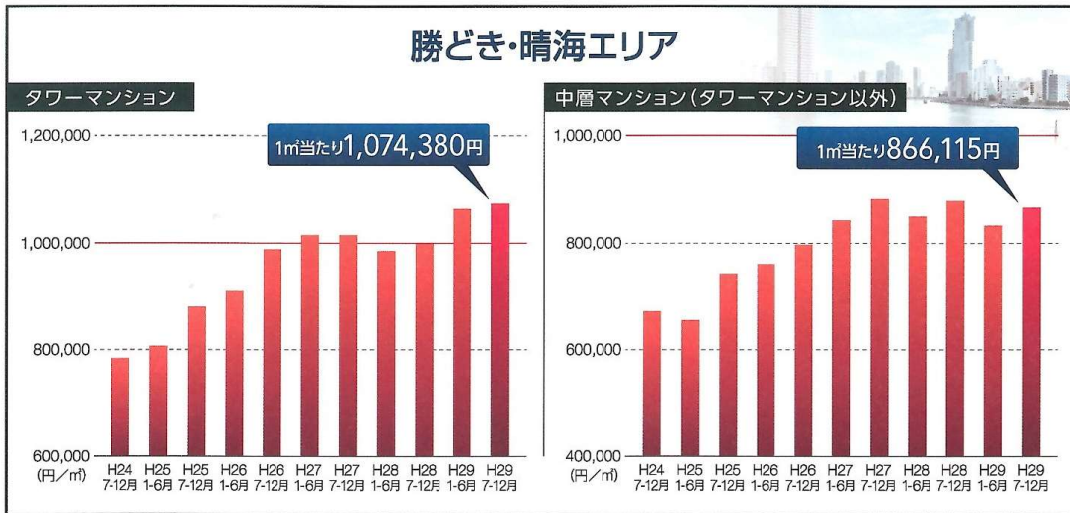
勝どき・晴海の中層マンションが1㎡当たり86万円、タワーマンションが107万円。  
一方、月島・佃の中層マンションが97万円、タワーマンションが113万円となっています。

Chuo-ku Bay Area Market Summary

# 勝どき・晴海・月島・佃のマンション価格推移

## エリア・タワー・中層マンションに分けた半年毎の価格推移

(中央区・湾岸エリアの半年毎 平均㎡単価 推移データ)



### 中央区・湾岸エリアの価格推移について

上記のデータは、【勝どき・晴海】、【月島・佃】のタワーマンション、中層マンションで分け、平成24年以降の半年毎の価格推移を1㎡あたりの単価で記載したものです。  
都心5区と同様に、中央区湾岸エリアにおいても㎡単価は大幅に上昇しており、平成27年からは安定して高値での成約に至っておりますので、ご売却に適した時期と考えられます。

2020年の世界的スポーツイベントに向け、再開発が進む同エリアですが、インフラ整備が進む一方、新築マンションの大量供給が予定されております。新築マンション価格は中古価格に与えるインパクトが大きいことから、需要と供給のバランスを考え、今を売り時だとお考えのお客様も増加しています。ご売却の時期を検討される上で過去と現在の価格推移をご参考にいただくと幸いです。